

報告ダイジェスト

- ・第23回社員総会開催報告 (報告1)
- ・インクルーシブファッションショー (報告2)
- ・玉井所長のイタリア訪問記④ (報告3)

報告1 第23回社員総会開催報告

5月25日(土)、第23回特定非営利活動法人ぱれっと社員総会を開催しました。各事業ごとに2023年度総括、決算、2024年度目標、予算について審議が行なわれ、第4号議案では、「ぱれっとの家のこつとの事業終了、ぱれっとホームのユニット増、工房ぱれっと移転」という大幅な事業改革について議論しました。

【当日の成立状況】

2024年5月25日現在の正会員数 306名(内訳:A会員163名/B会員132名/マンスリーサポーター11名)

《表決》または《委任》による有効議決参加者131名(※委任、表決両方提出の会員は表決を優先)

《当日出席正会員》71名 有効議決権合計 202名 過半数により成立

●議事進行の様子

冒頭、相馬理事長の挨拶の後、定款に沿って今回の総会の成立状況を確認し、正会員田口雄一氏を議長に、相馬理事長、南山事務局長を合わせた3名を議事録署名人に選出し、審議に入りました。

今回の議案は、下記のとおりです。

- 1号議案:法人事務局/広報啓発(案)
- 2号議案:余暇活動支援事業(案)
- 3号議案:国際支援事業(案)
- 4号議案:いこつと事業終了/ぱれっとホームユニット増
工房ぱれっと移転分散(案)
- 5号議案:就労支援事業(案)
- 6号議案:グループホーム運営・緊急一時保護事業(案)
- 7号議案:障がいのある人とない人の共同生活支援事業(案)
- 8号議案:役員改選について

今回、第4号議案にて私たちがぱれっとが長年手掛けてきた事業について大きな提案をさせていただきました。終了するものあり、現場の状況やニーズによって形や場所を変えるものありという提案に対し、会場からは多くの質問、戸惑いの声があがり、議決もその内容や方法を含めて賛否が分かれる結果となりました。最終的には議案通りの方向で承認を得ることとなりましたが、それでよしとせず、今後のプロセスについては当事者、関係者の声をしっかり聞きながら、丁寧に説明を加えつつ進めていくことを確認しました。運営にあたる者として当日頂きました皆様の声を、重く、真摯に、そしてしっかりと受け止め、2024年度の活動を続けてまいります。

(事務局 局長 南山達郎)

《2024年度事業目標》

法人事務局

◆会員拡大のための具体的な動きとして、広報ツールの作成及び使用を開始する。

▶会員拡大委員会の継続

広報啓発事業

◆目的別パンフレットの作成・配布を開始する。

▶会員拡大 ▶寄付金獲得 ▶人材募集 ▶事業紹介

▶たまり場ぱれっと

◆ボランティア主体の運営と定着化を図り、年2回の宿泊行事を実施。

▶プチバカンス 7月 ▶雪あそび合宿 2月(予定)

▶おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

◆地域や外部団体・企業等とのつながりを更に広げ、メンバー活躍の機会を増やしていく。

▶店舗の活用 ▶渋谷区で実施する「超短時間雇用」の利活用

◆安心して作業のできる環境を検討していく。

▶次年度の移転分散を視野に入れ、計画を立案

▶えびす・ぱれっとホーム/しゅや・ぱれっとホーム

◆ユニットの増設と居住支援を柱とした新たな住まい方を模索。

▶ぱれっとの家いこつとの事業終了に伴い、グループホームに転換してユニット増を目指す

▶ぱれっとの家いこつと

◆令和7年度、グループホーム(GH)への移行を具体的に進めていく。

▶いこつとの自由な雰囲気大切にしつつ、グループホームの良さも兼ね備えた新しい選択肢へ

▶ぱれっとインターナショナル・ジャパン(PIJ)

◆ネパールのクッキープロジェクトを見届ける。

▶ネパールPCBR(Patan Community Based Rehabilitation)との連携

※このほか、スリランカのNPO「サハンセバナ」との連携も計画しています。

2024~2025年度役員体制 ※第8号議案にて下記役員体制の承認をいただきました。

《理事》

- ▶相馬 宏昭/特定非営利活動法人ぱれっと 理事長 ▶田口 雄一/会員・特定非営利活動法人ぱれっと 副理事長
- ▶藤井 志保/会員 ▶南山 達郎/特定非営利活動法人ぱれっと 事務局長 ▶前田 大地/サステナブル・ラボ株式会社
- ▶辻 正雄/株式会社アーティストユニオン/デジタジオ株式会社 代表取締役/マーケター
- ▶竹森 浩子/ぱれっと親の会 ▶米岡 文土/株式会社ニッコー ▶黒澤 友貴/ブランディングテクノロジー株式会社
- ▶向井 直子/ぱれっと親の会 ▶蔭山 幸司/株式会社トラストワーク 代表取締役
- ▶玉井 七恵/おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと 所長

《監事》

- ▶矢崎芽生/矢崎公認会計士事務所 公認会計士 税理士

【ご報告】総会の議案審議の中で、現在ぱれっとが行なっている各事業、組織の運営について厳しいご意見を頂戴する場面がありました。当日参加された皆様におかれましては、不安を覚えた方もいらっしゃるかと思います。心よりお詫び申し上げます。私たちがしましては、ご指摘の内容も含め、改めて外部専門家の指導をいただきながら改善すべきところは積極的に改善していく所存です。引き続きご支援よろしく願いいたします。(理事長 相馬宏昭)

報告2 シブヤフロントファッションショー!

この春、シブヤフロントの拠点が渋谷区文化総合センター大和田から、原宿に新しく出来た複合施設「東急プラザ原宿ハラカド」に移転しました。それに伴ったお披露目イベントとして、5月5日五月晴れの中、ファッションショーが開催されました。「ショウガイはヘンシンできる」のキャッチコピーを打ち出し、資金はクラウドファンディング(=インターネットを使って不特定多数の人々から目的達成の為に少額ずつ資金を調達する仕組み)を募り、支援者の皆様のご協力ですぐに目標額を達成しファッションショーが開催できました。

衣装や小物はシブヤフロントに参加している各事業所の素材(織物、縫い物、絵など)を集め、スタイリストのヒトミチヒロさんがプロデュースしました。各事業所が持ち前の個性を活かしながらメンバーの手も借り少しずつ衣装を仕上げていきました。

ぱれっとは2着の製作を担当することになりました。他の事業所にお邪魔し、その事業所の利用者の方と一緒に作業をさせていただく機会もありました。普段なかなか触れ合うことのできないぱれっと以外での制作活動に触れられたことはとても新鮮に感じました。

1着目は工房ぱれっとの代名詞“らぶらび”と、定番商品になり人気定着したマスコットのふれんず達がワンピース全身に縫いつけられた、ファンキー(個性的で魅力的)で元気いっぱいの衣装が出来上がりました。しかし想像していた以上に重たく、着こなせるかな・・・と心配が残りました。

2着目は様々な生地を大小丸くカットして周りをかがって作ったパーツをワンピースに重ねながら付けて仕上げました。初めてのことにみんなはワクワクが隠しきれず作りな

がら笑顔が溢れていました。とても可愛く優しい雰囲気仕上がりでした。ショー当日に参加しないメンバーも一生懸命に手伝ってくれました。この衣装のパーツは吉井彩香さんがコロナ禍に在宅ワークで自主的にコツコツ作り始め、工房ぱれっとで何かに変身させようという楽しみを溜めていた材料でした。素敵なお披露目の機会に巡り合えたことを本当に嬉しく思いました。

ファッションショー当日、ぱれっとからは4人のメンバーが希望してモデルとして参加しました。いつもの表情にも増してキラキラワクワクしていました。プロのヘアメイクの方々が入り、メイクとネイル、そしてヘアスタイルと、どんどん綺麗にカッコよく、立派なモデルになっていました。本番では重さを心配していた衣装も完璧に着こなし、参加した他のメンバー達もペイントされた傘とレインブーツの雨の衣装を纏ったり、ストリートファッションの王道であるTシャツ姿で音楽に合わせて颯爽とランウェイに現れたり…最高のパフォーマンスを魅せてくれました!ぱれっとのメンバーだけでなく、出演された全モデル達もそれぞれに楽しみながらとびきりの笑顔でランウェイを歩いていたのが印象に残り、ショーは大成功に終わりました。

ファッションの持つ力は人を輝かせ、いつもの自分と違う自分を発見できます。ファッションと流行の街である原宿に居を構えたシブヤフロントラボという表舞台に立ち、沢山の人の目に触れながら世界を視野に活躍するみんなの姿を妄想してしまいます。「ショウガイはヘンシンできる」とのキャッチコピー通り、ショウガイは最大なるチャンスの種なのかもしれません。(工房ぱれっと 宮越三映子)



玉井所長の

報告3



イタリア訪問記④～地区の家Ⅲ～

昨年11月に訪れたイタリア視察の中から、トリノ市にある地区の家(注¹)2ヶ所をこれまでレポートしてきましたが、今回はトリノから高速鉄道で約1時間、人口9万人ほどの小都市、アレッサンドリアの地区の家を紹介します。

●「アレッサンドリア地区の家」設立の背景

中心駅から目抜き通りを抜け、学校や教会、民家が立ち並ぶ中に位置する1500平米の倉庫をリノベーションした建物です。社会的事業をする条件のもと安価(月1500ユーロ/約25万円)で借りています。イタリアで貧窮者の救済活動家として有名なドン・ガッロ神父(2013年没)と共に25年間働いたファビオ氏が仲間と共に2011年に設立しました(注²)。無料の放課後学校や移民のためのイタリア語講座、地域の家庭が90も集うフリーマーケットなど、地域住民をつなぎ結びつける活動が多数行なわれています。

アレッサンドリアはイタリアで初めに財政破綻をした都市であり、住民は公共サービスだけを頼りにできない事情がありました。そのため、貧困、DV、薬物中毒、ホームレス、移民…生活上困難を抱える人たちの特に夜間や休日の相談窓口として、また緊急時のシェルターとしてこの地区の家が大きな役割を果たしています。それだけでなく町のあらゆる所へ出向き困難を抱える人の早期発見につなげるアウトリーチも盛んです。毎晩2回街を巡回しホームレスへ毛布や水、食料を渡す活動はコロナのロックダウン中も続けられ、罹患したホームレスの人たちがのたれ死ぬことを防ぎました。これらの本来ならば行政が行なうような事業も、8割は市からの費用、2割は自費で行なっています。持ち出しの金額は決して少なくありませんが「他人のためにここまでできる」「公共サービスは本来ここまでやるべき」と行政に見せるためにも、この意思を貫いていると言います。

●薬物使用者へ偏見をもたない支援

少し離れた所では、保健所から委託を受け、薬物中毒者の支援センターも運営しています。特に驚いたのがその支援方針です。「薬物使用者

はセルフネグレクト(自身のケアを放棄せざるを得ない)状態」「薬物使用者に偏見を持たない(悪人として見ない)」とセンター長のフェデリコさんは話します。「本人が尊厳を無くしていることが問題の根底にある。ここでは薬物の危険について教え、本人自身が(薬物を使用するかどうか)決めることが大事」とのこと。そのためすぐに止めさせず、安全な使用の仕方を教えることもあるそうです(注³)。その先に、薬物から完全に卒業し社会の中で自身の尊厳や役割を取り戻していくことを見据えると言います。

●他団体との緩やかで強い絆

この地区の家の特徴は、近隣にある同じ価値観で活動する他団体との協調、連携です。①リストランテ・ソシアレ…高齢者限定の市民農園の中にあり、元囚人や知的障がい、摂食障がいのある人らを雇用する社会的レストラン②オルトゼロカフェ…こちらも社会的弱者の雇用創出がテーマ、地産地消(オルトゼロ=距離ゼロ)の野菜を使ったビーガンレストラン③ポルトイデー…若者世代が自ら作った自習室、たまり場。“思想の港”の意④セカンドライフ…地区の家に集まる古着の販売店(当初は無料で配っていたが、施しではなく1ユーロでも支払う方がその人の尊厳につながる)等が挙げられます。「社会的弱者とされる人たちが自分で考え選択して人生の主人公になれるように」—こうした思いが全ての活動のベースになっています。

ハードな側面も多いこれらの活動を長年続けるファビオ氏にモチベーションを尋ねると「他者と付き合うことを通して我々自身が立派な一人前の人間になれる」「“他者のため”だけでなく自分を高めるための“エゴイズム”でもある」と話していました。そして「少しでも社会に変化をもたらしていると思う事」とも付け加えていました。彼の実直な人柄や考え方に触発される“人”がここへ集まっているのも頷けました。

(おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと所長 玉井七恵)

今回の視察は、ローマ在住の多木陽介氏のアテンドと通訳により実現しました。心より感謝を申し上げます。

(注¹) 行政ではなく民間が設置運営する公共空間。イタリア全土60ヶ所以上に広がる (注²) この地区の家は一切宗教色なく運営している。(注³) アレッサンドリアでは薬物の使用は違法ではないが、売買や譲渡、多量に保有することは違法である。警察との取り決めで、センターが通報しない限り警官が薬物使用者を捕まえにこのセンターへ来ることはない。